

2014年度第5回 西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録（確定稿）

- 開催日時：2015年1月13日（火）18時00分～19時45分
- 開催場所：田無総合福祉センター 第3会議室（4階）
- 出席委員：五十嵐委員長、内田副委員長、小嶋委員、松尾委員、阿部委員、岩崎委員、鈴木委員、田中委員（以上、8名）
- 出席職員：栗山局長、妻屋ボランティア・市民活動センター係主査、中澤主事、利光主事、長山コーディネーター、渡辺災害ボランティア担当

【配布資料】

- 1：西東京ボランティア・市民活動センター事業月次報告（2014年11～12月）
 - 2：コーディネート状況等月次報告（2014年11～12月）
 - 3：ボランティアコーディネート実績（2014年11～12月）
 - 4：災害ボランティア養成講習会修了者交流会報告
 - 5：2014年度西東京ボランティア・市民活動センター予定表（1～2月）
 - 6～8：2014年度第2～4回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議＜未定稿＞
 - 9：西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会委員候補者名簿
 - 10：西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会設置規則
- 配布資料1：ぼらんていあ倶楽部第82号
- 配布資料2：学んで得するスキルアップ講座&ボランティア懇談会チラシ
- 配布資料3：東日本大震災から学ぶ 災害時のボランティア活動チラシ
- 当日配布資料：平成26年度事業計画、平成27年度事業計画・予算案

- 委員長より開会のあいさつの後、会議に移る。
- 事務局長より新年のあいさつを行う。

1. 報告事項

(1). 西東京ボランティア・市民活動センター業務報告（2014年11月・12月）について

- 事務局より資料1～6に基づき、2014年11月・12月の業務について報告を行う。
- 以下、質疑、協議が行われる。

委員：毎回報告されているボランティアコーディネート実績について「継続」と「定期」と記入してある状況を説明してもらいたい。

事務局：「継続」は調整中ではあるが活動の紹介には至っていないことを示している。「定期」は紹介後定期的に活動していることを示している。

委員：なぜ「継続」が多いのか。

事務局：「継続」の依頼内容は特技のボランティアを求めるものが多く、調整に時間がかかるため。

委員：「継続」であっても調整に時間をついやしているということ。

事務局：調整はしているが結果が出ていないために数字での報告に至っていない。

委員：高齢者、障がい者のニーズが多いが、子供に関するニーズは無いのか。

事務局：以前は保育のニーズが多かったが最近は少なくなっている。時期も関係していると思う。

委員：寺子屋での活動などはこれら報告に反映されているのか。

事務局：ここで報告しているのは、ボランティア・市民活動センターに上がってきたニーズに対してのコーディネーター数になる。

委員：市内におけるボランティア活動数はどの様に把握するのか。

事務局：ボランティア保険の加入者数が市内のボランティア活動を行う方の数の指標として捕らえることができる。

委員長：ボランティアの登録制度がよいのかどうかという議論もある。ところで、11月の総合的学習は1件となっているが。

事務局：学校行事との兼ね合いで特定の時期に集中する。年明け年度末にかけて依頼のある学校もある。

2. 審議事項

(1). 2014年度第2～4回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録（未定稿）の確認

- 2014年度第2～4回運営委員会の記録について確認を行う。確認終了したので確定稿にする。3月の委員会で確定稿を提出することになる。

3. 協議事項

(1). 次期任期の運営委員会委員候補について

○今年度の取り組みを振り返り、来年度の事業や次期任期運営委員の選出について意見交換を行う。

委員長：今回は出席委員が多いので、前回協議した来年度の事業計画案について、再度説明をしてもらいたい。

事務局：ミニ講座は、ボランティアをした事がない方、特技を身に付けたい方を対象とした講座。自信をつけてもらったうえで活動に繋がりたい意図がある。また、この講座を機会に様々な人がボランティアセンターに足を運ぶようになってもらいたいと考えている。

- ・多様性の理解は、地域において孤立防止を目的に講座を開く。高齢者・障がい者・子育て中の方など弱者の立場を理解する内容で、当事者からの話を聞きこれからを考える内容になっている。

- ・災害ボランティア養成は、来年度も実施していく。今年度の修了者については現在組織化の過程にあるが、組織化された後は自主的な活動をするとともに来年度の養成講習会にも一緒に関わってもらいたいと現段階では考えている。

- ・ボランティア・コーディネーターシステムは、コーディネーターの経験に依存してきたものを、システムを導入することによりデータベースとして蓄積させ、今後のコーディネーターに役立てようとするもの。270万円で要求をしているが、市との調整の中で90万円程度の予算となりそうな状況。

委員長：これら4つの取り組みが来年度の目玉であり、わかり易い。しかし、新しい取り組みにはしっかりと予算をつけてもらいたいと考えている。

委員：予算については、今から修正等できるのか。

事務局：市には提出済みの内容になるため予算の増額修正はできない。

委員：災害ボランティアの講演会チラシが本日の資料に含まれているが「ボランティア活動」という言葉を見て自らが活動しなくては参加できないと考えてしまう人もいるのではないか。自分達が生き残るための学習など、参加しやすい言葉を選んでもらいたい。

委員：ターゲットを若い世代にするならば、子育て中の母親などに災害時のことを学ぶというようなどころから広報をするのも良いではないか。

委員：災害ボランティア修了者の年齢層はどのようになっているか。

委員：災害ボランティア養成講座の中では、ゆめこらぼなどと一緒に取り組むことは考えられないか。

事務局：講演会の企画意図が伝わるような工夫を今後は心がける。今年度の災害ボランティア修了者は60歳代が中心。今回の養成講習会でゆめこらぼにはHUGの実施で協力してもらった。

4. その他

(1). 次回運営委員会開催日程について

- 以下の内容を確認した。
 - 開催日時：3月10日（火）18時30分より
 - 開催場所：田無総合福祉センター第3会議室（4階）
- 以上をもって、2014年度第5回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会を終了し、閉会した。